

平成13年第1回教育委員会記録

平成13年1月10日(水)

杉並区教育委員会

教育委員会記録

日時 平成13年1月10日(水)午後1時33分～午後2時02分
場所 教育委員会室

出席委員 委員長 丸田 頼一 委員長 宮坂 公夫
職務代理者

欠席委員 委員 大藏 之助

出席説明員 教育長 與川 幸男 事務局次長 松本 義勝
庶務課長 佐藤 博継 事務局参事 辻 武
学務課長 和田 義広 施設課長 秋葉 正行
指導室長 工藤 豊太 事務局副参事 田中 哲
社会教育 社会教育 中央図書館長 古川 正司
センター課長 荒井 健一 中央図書館 杉田 治
センター所長 伊藤 俊雄 次長
事務局職員 庶務課係長 木下 淳 法規主査 能任 敏幸
担当書記 後藤 行雄

傍聴者数 4名

会議に付した事件

- 報告案件
- 1 平成13年度新入学予定者就学通知の発送状況について
 - 2 教育委員後援等名義使用承認について
 - 3 成人祝賀の実施状況について

委員長 ただいまから平成13年度第1回教育委員会定例会を開催いたします。本日の署名委員は宮坂職務代理者をお願いいたします。ご案内の通りに、本日の議事日程は報告案件ということで、2件予定されております。最初に学務課長、よろしくをお願いします。

学務課長 それでは私から「平成13年度の新入学予定者就学通知の発送状況について」ご報告を申し上げます。この通知ですが、学校教育法施行令第5条に基づきまして、保護者に対して翌学年の初めから2か月前までにその入学期日を通知する。併せて区内に学校が複数、いわゆる2校以上ある場合につきましては、その就学すべき小学校、中学校を指定して通知するという法令に基づいて行うものでございます。

今年度の状況ですが、上の表にありますように、小学校、中学校と分けておりますが、いちばん下のA欄の左側に、「平成13年度の入学対象年齢者数」ということで、平成13年1月5日現在の住民登録者数ということになってございます。こういうことでございますので、学齢簿の作成というのがこの指定の手続の前にございまして、毎年10月1日に翌年度就学する人のものについては調整するというので、そのあと就学時健診及び就学相談をしまして、この時期に就学通知の発送というような事務手続になります。

その数字でございまして、住民基本台帳からの数字ですが、小学校はAの欄で、3,290名、これは前年が3,141名ということで、104.7%ということですが、ずうっと児童数が減ってございますから下降傾向にあったのですが、今年度は若干の増という形になっております。次に中学校の同じ数字でございまして、3,581名ということで、こちらは昨年が3,628名ということで、98.7%ということになりますので、引き続き漸減傾向ということでございます。

次にBの欄の左側を見ていただきたいのですが、「発送対象外者数」ということで、この時点までに下に書いてある内訳、国立、私立等に入学が決まって届け出が出ている者とか、就学猶予、あるいは免除をした者、それから学年変更、都立養護、あるいはその他の区への就学申請が出ている者、これらを差し引いたものを発送するわけですが、その合計数がB欄の所で、小学校が225名です。これはたまたまということなのでしょうが、昨年と同じ数字です。中学校の場合は、これが25名ということですが、昨年は23名という数字になっております。

ちなみに、いちばん最初の内訳の国立、私立入学届済者という所が、小学校が218名というかなり大きな数字が載っているのですが、中学校は非常に少なくなっております。これは区内の動向を示しているものではございませんで、この発送の時期には、試験等の関係がございまして、まだ入学が決まっておりません。中学校はこのあと、相当大きな数字が出てくるということで、結果的には相当数が就学通知を受けてまた、私立、あるいは国立のほうへ行くという結果になります。それらの差し引きをしたもの、区内の就学通知の発送予定者ですが、真ん中の黒い線の上のほうに、小計というものがございまして。登録している数からいまの対象外者を引きまして、小学校は3,042名、昨年が2,886名ですから、105.4%、中学校が3,528名で、昨年が3,601名で97.8%という結果になっております。これが基本的には、学齢簿に搭載された住民基本台帳からの通常の区内のお子さんというか、そういった方の、就学通知の内容でございまして。

次の下の欄ですが、特別就学、あるいは外国人の就学の関係ということになります。住民登録されている方以外では、Eの欄ということになりますが、小学校は37名、中学校は25名という方が対象になりまして、その内訳は記載の通りで、外国人が小学校の場合は30名、中学校の場合は19名、就学申請済者というのが、小学校が7名、中学校が3名ということです。これはちょっと分かりにくいのですが、就学申請済者というのは、特別就学ということで私どもは対応しているのですが、なんらかの家庭の事情で住民票を移動できないのですが、区内に居住されているという形で、就学を申請してきている方ということでございまして。以下は学年変更者、これは前の所で就学猶予してまますということで、1年遅れたり、2年遅れたりするわけですが、そういう人たちはこちらのほうで取扱っているという枠になります。これは小学校の場合は、ゼロですが、中学校は3名いらっしゃるということです。本来ですと、もうすでに中学校に入っている方で、まだ小学校に残っている方ということになります。

次にF欄ですが、他区への申請者、区域外就学ということですが、これは今回ございません。それから発送保留者、就学相談をいましているという方ですが、小学校ゼロ、中学校3ということで、その小計欄ですけれども、結果的には発送する方というのが37名と、22名ということになります。最後の所で、総発送者数ということでございまして、小学校が3,079名、昨年が2,924名で、

105.3%、中学校が 3,550 名、昨年が 3,622 名ということで、98.4%という数字になっております。以上でございます。

委員長 どうもありがとうございました。何かご質問、ご意見がございますか。

教育長 国立・私立入学届済者についてですが、中学校はまだほとんど決まっていないということで少ない数字で、小学校は概ね決まっているのかどうかちょっと分からないのですが、昨年度の実績で言うと、小と中で、国立又は私立に行った数というのはある程度出ているのか、もし分かっていたら教えてください。

学務課長 平成 12 年度の学齢者に対する数字ということでご理解をいただきたいのですが、小学校の場合は、国立が 48 名で 1.5%、私立が 255 名で 7.9%という結果になっております。また、中学校の場合は、国立が 79 名で 2.1%、私立が 1,041 名で 28.2%、合計で 30.4%で、小学校では、約 1 割弱の方が国立・私立、それから中学校の場合ですと、学齢者に対して、3 割の方が国立・私立に動いていると、そういった状況でございます。

教育長 はい、ありがとうございました。これは杉並区という地域環境のせいなのかなと思いつつながら、ちなみに 23 区、あるいは近隣区でもいいのですが、傾向的には特に、中学校の私学、国立に行く率が非常に高いのですが、これは杉並区の特徴と言っていいのか、23 区全般がそうなのか、必ずしもストレートでなくてもいいのですが、何かその判断材料みたいなものがあれば教えてください。

学務課長 ちょっといま学校基本統計調査を持ってきておりませんが、基本的には 23 区は同じような傾向だと思っていただいて結構です。少なくとも杉並区が、特徴的に高いということではなくて、むしろもう少し高い区もあるというご理解でいいと思います。

教育長 杉並の小学校も中学校も学校訪問をしましたが、非常にレベルが高いというか、子供たちも集中力がありますし、親御さんも教育に非常に熱心な方が多いものですから、多少自負心がありますし、区立の学校へ行く方がもっと多いのかなと思ったりもするのですが、そうでもないのですね。

学務課長 全国的に見ても、大都市圏、いわゆる受け皿としてこういった学校があるところと、ないところの差というのはどうしても出てまいります。

教育長 なるほどね。分かりました。

委員長 発送の状況ですが、いまの話ではないのですが、また 2 月とか 3 月にそ

の返事というか、結果が戻ってくるわけでしょう。

学務課長 ええ、発送いたします。そうしますと、国立等がその時点で決まっていますと、届け出が出てまいります。その場合は、私立とか、国立に行っていたかということになりますので、もうそれでおしまいということになります。もう1つは、指定校変更という形で、この発送通知が出た以降、この学校でなくて、別な学校へ行きたいというような調整がございます。この通知が出た以降学校は、そういった相談も受けながら調整をしていくということです。

もう1つ、本来はこの時点で、本当は全部確定しなければいけないのですが、養護学校とか、心障学級へ行く保留数というのがいちばん下側に両方載っていると思うのですが、この就学相談の結果で決定を伝えて、その通り養護学校、心障学級へ入学していただける方と、ご希望で通常学級に入学される方と、そういったことが整理されていって、先ほど言ったような結果になってくるということになりますので、これから3月ぐらいまではそういったことが続いて行くということになります。最終的にそういうことがございますので、いつも4月の時点の学級編制に続く数字の調整がなかなか難しいということです。

教育長 少子化傾向と言いますけれども、小学校も中学校も児童生徒数は、いま伺っている限りでは、ほぼ横這いと言ってよろしいのかなという印象を受けるのですが、どうでしょうか。

学務課長 杉並区の場合は、人口推計というのを企画のほうでやっておりますが、例えば5歳児で考えていきますと、平成17年度ぐらいまでは漸減傾向ということですね。ただし平成18年度以降は若干増加していくと、あるいはその増加が一律ではないのですね。例えば平成20年度まで一旦増えたのが、また21年度になったら減ったりとかいうことです。そんなことで、基本的には、漸減がほぼ止まってきたぐらいのところ、以前として合計特殊出生率は落ちていきますけれども、ほぼ落ちつきつつ若干減ったり、増えたりというような状況かなと思います。これが今年度たまたま小学校をいまご説明したとおり増えておりますが、これは毎年私どもこういったことは事務の関係で、住民記録を1月1日現在で人口を押えてくれる票を持っているのですが、今年たまたま今年入る子は、平成12年4月1日現在で見ていると、3,256名で、5歳児が入ってくるのですが、これがまた来年になると、いまいる4歳児が今度入るわけですが、3,139名と落ち込むのですね。ですから若干凸凹というか、減少傾向が

ありつつ、落ちついてきたのかなという感じがするのです。難しいですね。

教育長 私も学務課長の話を聞いていて、今まではずっと減少減少で、中学生は概ね横這いというか、時には微増のときもあるのですが、そのほかは、どんどんどんどん右肩下がりで来ていたのが何か止まったなという印象を受けるので、そういう意味では、ちょっと見方を変えなければいけないのかなという印象を今回受けました。

学務課長 住民登録だけでいきますと、平成12年4月現在での5歳児が入ってきますが、これは3,256名だったんですね。これが4歳児、3歳児、2歳児の辺りまでは、また3,100台に落ちているのですが、0歳児、1歳児になると、3,249名、3,280名というふうに増えているんですね。ですからこの辺はちょっと難しいですね。

事務局次長 今言えることは、都心の地価が下がってきたのでマンションが非常に建設ラッシュだと、そういった学齢児を持った親たちが入ってくる傾向にあるということが一般的な言い方で言えるわけですね。

委員長 いわゆる社会増ですかね。

学務課長 それでこの都の推計なんかをするときには、こういった住民基本台帳上の数字と、それからそういった50戸以上のマンションが建つようなケースの情報を上げて今やっているのですが、杉並区ではここ5年ぐらいで見えていくと、日産跡地がかなり大きな要件になってくるのかなと思うのです。あそこは、住都公団のほうで、相当大きなマンションを予定していますよね。今あれは「まちづくり」から情報を得ていますけれども、かなりファミリー層を予定しているというようなことですので、それが若干数字が、桃一小辺りですか、あの辺の学校になりますけどね。

教育長 日産跡地はだけど、まだ確定はしてないでしょう。

学務課長 「まちづくり」の情報からでは、5年以内の感覚で、今情報をいただいております。確定すれば都のほうに上げて人口推計を直していきますけれども、まだ確定情報ではありませんが、今来ている段階ではそういった見込み数値ということですね。

教育長 ただ今次長さんが言ったように、全般的にそのマンション、都心回帰といいですかね。

事務局次長 そうですね。民間マンションですね。

教育長 民間マンションですか。それは合計特殊出生率は下がっていても、社会増の関係で、一種の横這い現象みたいな感じになっているのですかね。

学務課長 今回の事務局の分析では、やはり小学校の増については、台帳上の就学対象者が多いということと、10月1日現在からの転入が結構あったというような分析になっております。

宮坂職務代理者 杉並区全部の人口に対する比率はどのようなのですか、小学校。増えているとか、減っているとか、それは何かデータがございますか。

学務課長 その比率はちょっと持っていませんが、全体としては児童数、生徒数はずうっと減ってございます。比率ではちょっと分かりませんが、横這いか若干減っているかなと思います。

教育長 それは10年くらい前から比べれば、ものすごく減ってますよね。

学務課長 最近では第一次ベビーブームのときの資料はちょっと持っていませんが、小学校では昭和50年がピークです。そして中学校は昭和58年に5割を切っています。

教育長 そのころから比べると。

学務課長 第2回目のピークです。資料はございませんが、もう少し前に、第一次の大きいピークがありました。

教育長 予測ですからなかなか難しいのですが、学級編制を想定しながら単学級校というのはやはり出ますか。

学務課長 今想定しているのでは、杉四小は今1年から6年まで全部そうです。

教育長 杉四が今現在がそうなのですね。

学務課長 そうです。そして次にくるのが、たぶん若杉小が5年6年のところだけ、今2学級だけ1学級しかありませんが、それで来年は大丈夫かなという感じですが。その辺のところについては、近々仮認可のところでご報告させていただきます。

教育長 いや、全学年1クラスずつなんていうのはね。子供の教育にとってはどうなのか、なかなかゆゆしい時代ですよ。他のクラスと競ったり、学び合ったりすることがありませんし、また先生方同士も相談し合ったりということができませんから、寂しいなと思いますね。

学務課長 そうですね。やっぱり若杉は、いま手元の書類を見ましたけど、去年の5月1日現在で、6年生が42人で2クラスで、それ以外は1クラスになって

います。そしてあと山は、3年生が38人なのですね。こういうところが増えれば、また戻るのですが、ちょっと微妙なところですかね。

委員長 はい、分かりました。よろしゅうございますか。

(「なし」の声)

どうもありがとうございました。それでは2番目に「教育委員会後援等名義使用承認について」ということで、社会教育スポーツ課長、お願いします。

社会教育スポーツ課長 それでは私から12月分の教育委員会共催後援名義使用承認につきましてご報告申し上げます。12月は、27件ございました。社会教育スポーツ課が21件、社会教育センターが6件でございます。そのうち、新規が両方合わせて3件でございます。そして定例のものが24件です。新規が3件ですが、その新規につきましては、社会教育スポーツ課の18と、3頁目の社会教育センターの2と4が新規のものでございまして、あとはすべて定例的なものということでございます。共催が20件、それから後援が7件ということで、4月から12月までの累計が356件でございます。定例的なものが320件、新規が36件、共催が202件、後援が154件というふうな状況でございますので、一覧表をご覧いただきたいと思っております。以上です。

委員長 はい、質問はいかがですか。

教育長 新規の件について、若干補足をお願いできますか。子育てマップの会と、東京都環境学習センターの中身をもう少しお願いします。

社会教育センター所長 子育てマップの会ですが、これはお母さん方の集まりの中で、子育てに役立つマップを作っていくというふうなことしている団体が、幼稚園園入学を控えた親御さんに有益な情報を与えるというふうなものです。ちょっと詳しい内容については分かりません。東京都環境学習センターのほうは、東京都と杉並区の共催というふうなことで、主に善福寺川の環境を良くするというふうなことで、その川に親しんで環境学習をしていくということで、今年度いっぱい活動をしていくというふうな会でございます。

教育長 いつも新規のときには、ご丁寧にご説明をいただいていると思っておりますので、新規については是非お願いしたいと思っております。定例は、大体会を我々も見ていますし、内容も分かっていますけれども、新規は分からないのですから、教育委員会の後援名義を使う以上、私は事前に中身を詳細に知りたいですね。

社会教育スポーツ課長 はい、分かりました。

教育長 併せて3番目の定例ではありますがけれども、小学校のPTA連合協議会会長OB会のPTA広報紙コンクール第5回、これはいつどこでやるのか、もしお答えいただければありがたいのですが。

社会教育スポーツ課長 今、細かい表を持ってきておりませんので、あとでお教えいたします。

教育長 私は承知してないものですから、それでは後ほどお願いします。

委員長 いまお話がありましたように、そういう企画書的なものですよ。事業目的とか、事業内容とか、その辺も説明してくださいということですよ。

教育長 かつて新規で営利に関するような活動をした団体があったような記憶がありますので、そういうことを未然にチェックするのも教育委員会の仕事でございますから、やはりご説明をいただければと思います。

委員長 ほかにいかがですか。

教育長 委員長、情報としてですが、これは教育委員会の所管ではないので結構ですけれども、成人式の出席者とか、そういう状況だとかもし分かっていたら伺いたいのですが。

社会教育スポーツ課長 8日に先生方もお出でいただいたと思うのですが、対象がたしか6,716人で、参加者が確定ではないのですが、2,183人ということで、昨年よりか1%減です。というのは、前夜から雪が降りまして、午前中はちょっと少なく、約600人前後ですね。それから午後は、お天気が回復して盛り返しまして、1,500人を超えたというふうな状況でございました。

教育長 はい、ありがとうございました。テレビでいろいろと報道がかしましくあって、とんでもない成人式になった自治体もあったようなので心配をしておりましたが、出席率もまあまあいいようですし、私の印象ですけど、とてもいい子の集まりという言い方はちょっと語弊があるのですが、立派な成人式だったなと思いました。子供たちも場内で携帯電話の鳴りっぱなしみたいな子は少しはありましたが、テレビで見るようなことは全くなかったですし、いい意味で明るい成人式ではなかったかなと思って、これならばしっかり講演会を30分や1時間やっても、聞いてくれるのではないかなという甘い期待を持つくらいに、今年はこの言い方は変ですが、とても立派な子供たちというか、成人式だったなという印象は持っています。実際に講演をやって、ちゃん聞いてくれるかどうかはなんとも言えませんが、とてもいい成人式だったと私は思いま

した。

社会教育スポーツ課長 ただ午後は、当然ホールの定員が1,100いくつですよ。

そして1,500人を超えていましたから、ロビーには数百名がたむろするという事はちょっと言葉は悪いのですけれども、同窓会というか、そのようなことで、かなり盛り上がっていたような面もありました。

委員長 成人になった人は何人ですか。

社会教育スポーツ課長 6,716人です。

委員長 そうすると、3分の1ぐらいが出席したということですか。

社会教育スポーツ課長 毎年33～34%で、今年はたしか32.何%になったと思います。それはお天気の関係で、午前中ちょっと出足が悪かったというふうなことが言えるかと思いますが、ほぼ例年通りだったと思っております。

教育長 あとの催し物ですが、実行委員会が企画したらしいのですが、20年を振り返ったものでね。

宮坂職務代理者 スライドでね。

教育長 ええ、スライドでニュースを流し、その時々音楽、歌ですね。それもなかなか若者に合ったフレッシュな歌でね、よかったですね。ちゃんと去年なんかは桑田佳祐の”TSUNAMI”も入ってました。私も大好きなのでですけど良かったですよ。演奏していたあのグループはプロだったのですかね。

社会教育スポーツ課長 ええ、そうです。

教育長 プロですね。でも若い人でね。

社会教育スポーツ課長 あとのほうは、漫才とパラパラ、それは女性・青少年課のほうで、業者にお願いをしてやっていただいたということですよ。

委員長 いろいろな事業企画というのは、いまの女性・青少年課で実行委員会を組んで、若い人たちに参画してもらい、それで一体的になって、ディカスしてやったということですか。

社会教育スポーツ課長 そうです。最後のほうで壇上で10名ほど紹介していたと思うのですが、17歳から、今回の対象の方も3名ほどいたということで、その方たちが考えて企画をしたということですよ。

委員長 マナーとか、いろいろなことで良かったですね。はい、分かりました。ほかに委員の皆さん方はよろしいのですか。

(「なし」の声)

事務局のほうは、ほかにございますか。

庶務課長 ございません。

委員長 それでは本日の教育委員会の定例会は報告事項だけですので、これで終わります。どうもありがとうございました。次回ですが、庶務課長からお願いします。

庶務課長 次回ですが、1月24日です。この日も、学校訪問を午前中10時からということで、高井戸西幼稚園を予定しております。それから午後教育委員会ということで、1時30分から開催ということです。

委員長 それでは皆さん方、ご予約のほど、よろしく願いいたします。